

スクエアダンス講習会 標準テキスト

A1 コース

コール入門



一般社団法人

日本スクエアダンス協会

目次

はじめに	3
1. コーラーとしての心構えの理解	3
2. コールシステムの種類	3
3. パターコールの構成	4
4. 適切な音量	4
5. 正しい発声法の実践	5
6. 聴き取りやすい発音	5
7. 正しい発音とイントネーション	5
8. 音楽のビートに乗ってコールをする	6
9. パターコールを読みながら行う	7
10. パターコールを暗記して行う	9
11. 動作とタームの違いの理解	9
12. コールに従って駒を動かす	9
13. シンギングコールの構成	10
14. 自分の声域に合ったシンギング曲を選ぶ	10
15. シンギングコールの実践	11
16. メロディラインを正確に歌う	11
17. FASR とは	12
18. 様々なフォーメーション	13
19. タイミングの重要性	13
20. 音響機材の取り扱い方法の理解とセッティング	13
21. 適切なマイクの使い方	14
22. 音源や機材の購入方法	14
23. 女性コーラーの為の音源	15
24. コール用ソフトの活用	16
25. スクエアダンス関連の Web サイトの閲覧方法	16
26. 所属クラブのルールや役割分担の理解	16
27. スクエアダンス関係の組織や事業についての理解	17
28. 所属クラブや関係組織の仕事への協力	18
29. クラブや組織での指導的役割	18
30. スクエアダンス活動に関係する法令や規範についての基本的な知識	18
おわりに	19
別紙資料 1 : Formations (CALLERLAB ホームページより)	20
別紙資料 2 : Formations & Arrangements (CALLERLAB ホームページより)	23
別紙資料 3① : BMS Timing (CALLERLAB ホームページより)	30
別紙資料 3② : Plus Timing (CALLERLAB ホームページより)	32

別紙資料 4 : 著作権保護に向けてのガイドライン	33
別紙資料 5 : 一般社団法人 日本スクエアダンス協会 倫理要項.....	35
補足 : A1 コースについての詳細	36
編集後記	37

はじめに

A1 コース受講生の皆さん、ようこそ講習会へ！皆さんの受講を心から歓迎します。

今回、皆さんが受講するコースは、A1 コース、コーラーの入門コースです。このコースでは、『コーラーの役割、およびコールに必要な基本スキルの認識と理解』を目的に進めてまいります。

コーラーとしての第一歩を踏み出す、基本の重要なコースです。コーラーとしての基本を一緒に楽しく学んでまいりましょう！

1. コーラーとしての心構えの理解

スクエアダンス（以下 SD）の世界において、コーラーは『指導者』です。ただ単にコールをしていれば良いだけではなく、特に日本の SD 界では、所属クラブでの役割分担、組織への協力を求められることがあるでしょう。クラブや組織への役割・協力を求められた時には、是非、積極的に参加してください。それがコーラーとしての第一歩です。

まずは、コーラーとして、日々自身のコールの研鑽に励み、技術向上を目指してください。

そして、クラブに入って来た初心者大切にすると共に、初心者の気持ちを忘れず指導に取り組んでください。日本の SD のクラブの多くは、サークル型の運営を行っており、そこに参加される方は多くが社会経験の豊富な方々です。是非、それぞれの立場を尊重し、それぞれの方々への尊敬の念をもって指導にあたってください。

- コーラーは指導者
- 所属クラブ・組織への協力を積極的に行う
- 参加者の立場を尊重し、尊敬の気持ちをもって指導に当たる

2. コールシステムの種類

コールにはいくつかの方法があります。まずはそれを知っておきましょう。

① リーディングコール（Reading Call）

自分で予めコールのシーケンスを作り、それを読むコール
書いたものを読むことから、ライトアップコール（Write Up Call）とも言う

② メモリーコール（Memory Call）

予め作ったコールを記憶（暗記）して行うコール

③ サイトコール（Sight Call）

特定のダンサー（通常は 1 組と 4 組の 4 名）を覚え、後はダンサーを見ながら自由にコールを行い、ゲットアウトする時に覚えたダンサーがどこにいるかを判断してゲットアウトしていくコール
Sight には、『見ること』『視力』『視覚』『視界』といった意味がある

④ イメージコール（Image Call）

基本的にはダンサーを見ずに自分の頭の中で特定のダンサー（通常は 1 組の男性）を追いかけてゲットアウトポジションに持っていき、ゲットアウトしていくコール

⑤ モジュールコール（Module Call）

セットをある隊形から、ある隊形へ変化させる動きの組み合わせをモジュールと言い、そのモジュ-

ルを組み合わせて行うコール

モジュールには、『構成部分』『測定基準』といった意味があり、モジュールをたくさん作り、記憶し、組み合わせて行う。メモリーコールと共通する部分がある。

これらの内、どのコールを行なうか？は重要なポイントですが、まずは今回の講習では、リーディングコール、メモリーコールを中心に学びます。

3. パターコールの構成

SD のコールは、一般的に、①パターコール、②シンギングコールの順番で行われ、この 2 つを合わせて 1 チップと呼びます。1 チップはおよそ 12 分で、内シンギングが約 4 分程度なので、パターコールは、チップ前後の準備、入退場との時間を考えると、約 5～6 分程度が一般的でしょう。

セットをある隊形から、ある隊形へ変化させる動きの組み合わせをモジュールと言いますが、パターコールは、Bow to Your Partner に始まり、概ね次のように構成されます。

A : ゲットインモジュール (Get In Module)

ダンスを開始するモジュール

スタティックスクエア (スクエアセット) から一定の隊形までの動きを構成するモジュールのこと

B : ゼロモジュール (Zero Module) / コンバージョンモジュール (Conversion Module)

コールの中核で、一定の隊形から一定の隊形までのモジュール

特に隊形を変えるものをコンバージョンモジュールと言う

C : ゲットアウトモジュール (Get Out Module) またはリゾルヴモジュール (Resolve Module)

一定の隊形からゲットアウト (Allemande Left や Grand Right and Left) までのモジュール

パターコールは、1 曲の中で、およそ、6～7 回程度のゲットアウトを行います。

コーラーは縦横にダンサーを動かしますが、必ず、ゲットアウトとしてコーナーとの Allemande Left や、Partner との Grand Right and Left を行い、最終的に元のパートナーに戻り Get Back Home して終了します。 ※モジュールについては他のコースで講習します。

この、元のパートナーに戻る、ということが最も大きなパターコールの特徴でしょう。

パターコールは、ハッシュコールとも呼ばれます。パターには『おしゃべり』、ハッシュには『細切れ』という意味があり、パターコールはおしゃべりをするようなコール、ハッシュコールは色々なダンスの動きを細切れにコール、という意味で呼ばれています。

- SD のコールは、パターとシンギングで 1 チップ、およそ 12 分で構成、パターは 5～6 分程度
- パターコールは、必ずパートナーに戻し、Home に帰る
- パター : おしゃべり、ハッシュ : 細切れ

4. 適切な音量

SD のコールは、概ねマイクを用いて行い、アンプ、スピーカーを通してダンサーに届けられます。

例会でもパーティーでも適切な音量で行うことは極めて重要です。初めの内はどのくらいが適切か、

なかなか分かりませんが、例会であれば、先輩コーラーや、ダンサーに都度聞きながら、適切な音量で行うようにしましょう。

自身の声と音楽とのバランスが大切です。ダンサーに聴き取りやすいバランスでコールすることを心がけましょう。また、会場の広さによっても適切な音量は異なりますので、注意が必要です。

- コールを行う際は、会場の広さ等に注意を図り、適切な音量で行う
- 参加している他のコーラーや、ダンサーに、適切な音量かどうかを聞いてもらう

5. 正しい発声法の実践

コールは声を出して、ダンスの指示を行いますので、発声はとても重要です。

コールは、ダンサーに伝わらなければ意味がありません。小さい声はもちろん望ましくありませんが、大きすぎても良いとは言えないでしょう。

発声はプロに学ぶのが一番良いと思いますが、体をリラックスさせ、良い姿勢で、いわゆるお腹から声を出すことが基本です。また、口の動きを活発にし、ハッキリ歯切れよく声を出しましょう。

- ダンサーに伝わるのが最も大切
- リラックスし、良い姿勢で、お腹から声を出す
- レコーダーでご自分のコールを録音し聞いてみる。プロや諸先輩コーラーと比較してみる
- 必要に応じ、プロに学ぶ、書籍や DVD、最近では YouTube 等のネットでも様々な発声法、ボイストレーニングが公開されています

6. 聴き取りやすい発音

SD のコールは英語で行われます。日本人コーラーにとって英語の発音は最も苦勞する部分です。

まずは、ダンサーに聴き取りやすい発音を心がけましょう。コールは、ダンサーに伝わらなければ意味がありませんから、声をしっかり出し、姿勢を良くして、ダンサーに伝わるように、はっきり発音してください。

始めのうちは、『しっかり伝わること』を優先して行うと良いでしょう。

- ダンサーに伝わるように、はっきりと発音する（伝わらなければ意味がない）
- 声をしっかり出し、姿勢を良くする

7. 正しい発音とイントネーション

聴き取りやすい発音の次は、正しい発音です。

日本語はあまり発音にこだわりませんが、英語は発音が大事です。しかし、日本人にとって英語の発音はかなり困難です。特に、R と L、F、TH、IR、V 等が日本語には無い発音なので苦勞します。これらを後天的に習得するのは極めて難しいことですが、練習して少しでも正しい発音に近くなるようにしてください。書籍やネット等で学ぶのも効果的です。

例：

R：舌を丸め、上あごに付けない → Right

L：舌尖を上あごに付けたまま発音する → Left

F：上の前歯を下唇に当てる → Four、Fold

TH : 舌を上前歯と下前歯の間に少し出して言う → Thru

IR : 口を半開きにする感じ → Girl、Third

V : 上の前歯を下唇に当てる → Veer (Bは日本語のバ行に似ている)

また、英語は日本語に比べ、イントネーション（抑揚）が大切です。強調したい動き、難しい動き、ゲットアウトの時など、抑揚をつけることを意識し、ダンサーにより伝わりやすくしましょう。

- 英語の発音は困難だが、少しでも正しい発音に近づくよう努力する
- 書籍やネットで学ぶ
- イントネーション（抑揚）をつける

8. 音楽のビートに乗ってコールをする

ビートとは、音楽における構成要素の一つで、打点等と訳されます。

音楽に合わせて、足を踏み鳴らすと、その足踏みがビートです。SDはダンスですので、ビートに乗りビートに合わせて踊ります。コールもビートに乗って行う必要があります。

BPMという言葉があります、Beats Per Minuteの頭文字を取って、BPMといいます。

1分間に何回ビートを打つか、というもので、SDの場合は、126～128が良い速さとされています。実際に曲を聴きながら、ビートに乗ってコールできるように練習しましょう。

- ビート＝打点、SDに適しているのは、126～128BPM
- 曲に合わせて、ビートを取ってみましょう

9. パターコールを読みながら行う

基本的なコールを見てみましょう。横軸がビートです。読みながら実際にコールしましょう。

例 1

	1	2	3	4
1	Bow to Your	Partner		
2	Bow to Your	Corner		
3	Join Your	Hands	Circle	Left
4				
5	Allemande	Left With	Your Left	Hand
6	Partner	Right Go	Right and Left	Grand
7				
8	Meet Your	Maid	Take her by the	Hand and
9	Promenade			
10	Promenade	Go	Two by	Two and
11	Get Back	Home and	What You	Do

第 10 小節の 2 ビート目の Go は、通常と、ずれたところから始まっています（通常と、ずれたところに強拍があります）。この通常とずれているところをオブビートと言い、このずれた状態をシンコペーションと言います。シンコペーションは、通常の進行の中で急に拍がずれたように聴こえるため、意外性があり、より強いインパクト、メリハリを残す効果があります。意識してコールしてみましょう。

例 2

	1	2	3	4
1	Heads	Go	Up to the	Middle and
2	Come on	Back		
3	Square	Thru	Count	Four
4				
5	DoSa	-do Make an	Ocean	Wave
6			Swing	Thru Come
7	Two By	Two		
8	Boys	Run	Around The	Girl
9			Bend The	Line And
10	Right and Left	Thru		
11	Ladies	Lead	Flutter	Wheel
12			Slide	Thru And
13	Allemande	Left		
14	Partner	Right Go	Right and Left	Grand
15				
16	Meet Your	Partner	Promenade	
17				
18	Get Back	Home and	Square	Set

- ① ビートに合わせてコールしてみる
- ② 曲に合わせてコールする（キーに合う、音程が外れない等）

10. パターコールを暗記して行う

- ① 9 項で行ったコールを、暗記して行いましょう
- ② 9 項で行ったコール以外にも、暗記にチャレンジしてみましょう

11. 動作とタームの違いの理解

コールには、ダンスそのものの動作と、動作以外の用語（ターム：term）があります。

9 項の例を一部抜粋引用すると

Partner	Right Go	Right and Left	Grand
Meet Your	Maid	Take her by the	Hand and
Promenade			
Promenade	Go	Two by	Two and
Get Back	Home and	What You	Do

以上の中で、

Partner Right Go : ターム

Right and Left Grand : 動作

Meet Your Maid Take her by the Hand and : ターム

Promenade : 動作

Go Two by Two and Get Back Home and What You Do : ターム

になります。

動作は、コールの動作そのものです。ダンサーにしっかり伝わるよう、はっきり言いましょう。

タームは、動作のコールの合間を埋める用語です。

米国のコーラーなどは、タームを途切れの無いよう効果的に用いるコールを行います。英語を母国語としない日本人には、タームが多いと、動作との区別がつきにくく、時に間違える要因になり兼ねないため、多用には注意が必要です。とは言え、流ちょうなタームのパターコールは、聴いていて心地良さがあります。

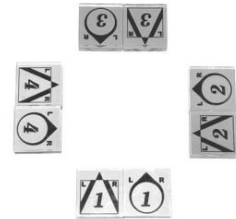
12. コールに従って駒を動かす

次は、SD 用の駒を使ってみましょう。

コールを組み立てて作って行くには、SD 用の駒を使うと便利です。販売されている物もありますが、自作されている方もいらっしゃるようです。駒を使って、SD の動きを動かしてみましょう。また、□○等の図を描く方法もあります。

SD の動きには、始まりの隊形、動き、終わりの隊形があります、それぞれを、駒を用いることによって、きちんと理解し、動かせるようになりましょう。

- 駒を動かし、SD の動きを確認する
- その動作の、始まりの隊形、動き、終わりの隊形、を理解する
- 駒で SD の動きを、確実に動かせるようになる



SD 用駒：サンプル

13. シンギングコールの構成

スクエアダンスの通常のチップは、パターコールとシンギングコールで構成されています。

シンギングコールは原曲があり、それに合わせてコールするので、カラオケに近い感覚を持たれることがありますが、コールとカラオケは大きく違いがあります。それは、『伝達』です。カラオケは、歌詞が全員に全て聞き取れなくても構いませんが、コールは、全てが全員に伝わらなければいけません。そこがカラオケとの大きな違いです。

シンギングコールは、以下の 7 つのパートが、64 呼間ずつで構成されています。

- I : Opener : 前半 32 呼間は、Circle Left、Grand Square、Four Ladies Chain、Four Ladies (Boys) Promenade、等で始まるのが一般的
後半 32 呼間は、Allemande Left、Weave the Ring が良く使われ、Partner と Swing、Promenade が多い
- II : Figure 1 : 48 呼間 Figure を踊り、16 呼間 Promenade する
コーナープログレッション（女性が一人ずつコーナーに移動する）が一般的
- III : Figure 2 : II と同
- IV : Middle Break : Opener と同
- V : Figure 3 : II と同
- VI : Figure 4 : II と同
- VII : Closer : Opener と同

必ずしも、上記通りに行わなければならないというルールはありませんが、上記の構成が広く一般的にコールされています。

14. 自分の声域に合ったシンギング曲を選ぶ

声域とは、その人が出せる声の最も高い音から、最も低い音までの範囲のこと。

シンギングは原曲があり、それが SD 用にアレンジされ発売されています。どんな曲を選び、コールするかは、極めて重要なポイントです。

シンギングを良く聴いていただき、自分の出せる声の最も高い音から、最も低い音の範囲で演奏されている曲を選んでください。

また、人にはそれぞれ歌いやすいキーがあります。キーとは、調のことで、メジャーキー（長調）とマイナーキー（短調）があります。ドレミファソラシドのように、ドからスタートして、全音、全音、半音、全音、全音、全音、半音の 7 音の並びがキーになります。そのキーが、どの音から始まる 7 音になるかで、キーの種類が変わります。

例えば、ドから始まる 7 音のキーは、和名では八長調、英名では C メジャーと言います。

※キーの呼び方：ドレミファソラシド：イタリア語、ハニホヘトイロハ：日本語、CDEFGAB：英語
どの7音が自分に最も歌いやすいキーか、考えてみましょう。

色々なシンギングを聴いて、自分に合っている、自分が最も歌いやすいキーの曲を探してみましょう。

- 自分の声域に合った曲を選ぶ
- キーとは、調のことで、長調（メジャー）、短調（マイナー）がある
- いずれかの音から始まる、全音、全音、半音、全音、全音、全音、半音の7音の並びがキー

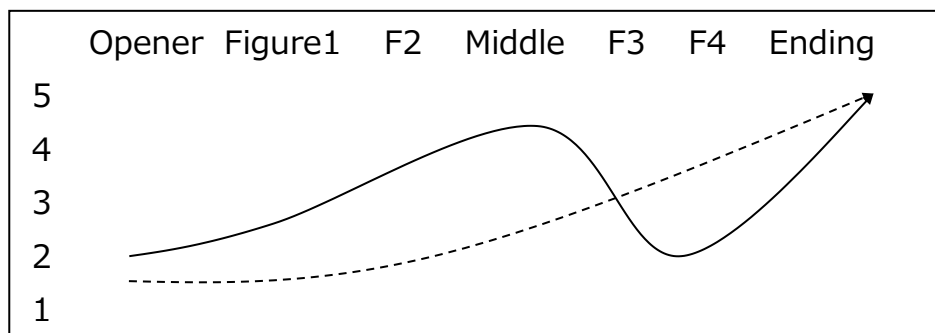
15. シンギングコールの実践

シンギングを実践するには、好きなコーラー、上手いと思うコーラーがやっていたシンギングの真似からが良いと思います。曲を購入した際に、with Call を聴いて真似をすることも良いでしょう。

また、原曲を聴くことも勉強になります。何度も曲を聴き、実際に自分で歌ってみましょう。

先に述べた通り、シンギングは7つのパートで構成されていますので、単に7回繰り返して同じように歌うのではなく、7回のストーリーを考えてみてください。一般的に言われるのは『N字曲線』です。

■ シンギングの構成と盛り上がり 『N字曲線』



図中の曲線がコールの盛り上がり度とを考えてください。

おとなし目で始め、徐々に盛り上げミドルで一度ピーク、一回落としてエンディングで最大値へ、という感じです。他にも点線の様な構成もあります。

上記は一例ですが、自分なりの構成を考え、自分なりの歌い方をしてみましょう。

- 自分が好きな曲、気に入った曲を、他のコーラーがコールしているのを聴き、真似てみる
- 購入した曲のボーカルをよく聴き、真似てみる
- 7つのパートの歌い方を考える

16. メロディラインを正確に歌う

シンギングには原曲があります。当然、原曲には、メロディがあり、それに則り歌うことが大切です。

メロディは、日本語では、旋律と訳され、歌や楽曲の節（ふし）、または歌そのものを言います。ハーモニー（和声）、リズム（律動）と共に、音楽の三要素と言われます。いくつかのシンギングを実際に聞きながら、メロディラインを歌ってみましょう。

- 曲を良く聴いて、メロディラインを掴む
- 実際に歌ってみる、何度も繰り返し、実践する

17.FASRとは

ここで FASR について学びましょう。

FASR（ファイザー、または、ファザーと読みます）とは、コーラーがコールを行う上で、常に理解しておかねばならないことです。ダンスにおけるその時々隊形をセットアップと言い、そのセットアップにおける状態のことを言います。

セットアップは以下の 4 つの要素から構成され、それぞれの頭文字を取って FASR と呼びます。

F : Formation、A : Arrangement、S : Sequence、R : Relationship

・Formation（フォーメーション＝隊形）

フォーメーションは、最も耳にする言葉で、SD における様々な隊形のことです。

このフォーメーションは、米国の CALLERLAB によって定められています（別紙資料 1）。

■ CALLERLAB : <http://callerlab.org/>

コーラーはこの全てのフォーメーションを理解する必要があります。

・Arrangement（アレンジメント＝配列）

アレンジメントは、フォーメーションの中でダンサーの配列がどうなっているか？というもので、CALLERLAB によって、2006 年に認定されています（別紙資料 2）。

0, 1/2, 1, 2, 3, 4 の 6 種類があります。下記に Facing Line のアレンジメント例を示す。

A-No.	A0	A1/2	A1	A2	A3	A4
Facing Lines						

・Sequence（シークエンス＝連続・順序）

シークエンスとは、ダンサーの連続性のことで、コーラーとして聞き慣れた言葉では、オーダー（Order）です。すなわち、インとアウトの 2 種類があり、その組み合わせは以下の 4 種類です。

1. 男性イン女性イン、
2. 男性イン女性アウト、
3. 男性アウト女性イン、
4. 男性アウト女性アウト

・Relationship（リレーションシップ＝関連性、結びつき）

リレーションシップは、パートナーペアリングのことです。フォーメーションの中で、それぞれのダンサーが連れているパートナーは誰か？ということで、以下の 8 通りがあります。

■ Relationship 一覧

M : 男性, L : 女性

	1	2	3	4	5	6	7	8
1M	1L	1L	2L	2L	3L	3L	4L	4L
2M	2L	4L	3L	1L	4L	2L	1L	3L
3M	3L	3L	4L	4L	1L	1L	2L	2L
4M	4L	2L	1L	3L	2L	4L	3L	1L

以上が、FASR それぞれの説明です。

コーラーはこの FASR を理解した上で、コールを組み立て実行します。

特に、ゲットアウトを行なう時は、FASR がとても重要です。

自分がゲットアウトしようとする時に、

- A : そのフォーメーションは何？
- B : ダンサーの配列は？→基本的に 0 に持っていきます
- C : 男女のシークエンスは何？→男女ともインオーダーにします
- D : パートナーは誰を持っている？
→キーカプル（1 組）を付けた時に 4 組は誰を持っているか？

以上の全てを理解しなくては、ゲットアウトはできません。FASR はとても重要な考え方なのです。

- FASR とは、コーラーがコールを行う上で常に理解しておかねばならないことで、ダンスにおけるその時々隊形（セットアップ）における状態のことを言う
- セットアップの 4 つの要素の頭文字を取って FASR と呼ぶ
F : Formation、A : Arrangement、S : Sequence、R : Relationship、

18. 様々なフォーメーション

フォーメーションは、FASR の項でも述べた通り、SD における様々な隊形のこと、米国の CALLERLAB によって定められています。

現在、2010 年 12 月 14 日付のものが最新で 79 のフォーメーションが定められています。

（CALLERLAB ホームページに掲載されている最新版：別紙資料 1）

コーラーは、このフォーメーションを理解し、このフォーメーションからコール可能な動き、またコールの結果、どのようなフォーメーションになって終了するかを理解する必要があります。

- 79 のフォーメーションを理解する
- それぞれのフォーメーションから可能なコール、コールの結果のフォーメーションを理解する

19. タイミングの重要性

ダンサーがスムーズに、心地よく踊るためには、タイミングは、極めて重要な要素です。

SD におけるタイミングは、呼間と言われ、CALLERLAB の定めがあります。（別紙資料 3①、3②）

それに則りコールします。タイミングの良いコールを行わなければ、ダンサーは心地よく踊れません。

常にタイミングを意識してコールしましょう。

- タイミング（呼間）は、コールにおいて極めて重要な要素
- CALLERLAB の定めに従ってコールする

20. 音響機材の取り扱い方法の理解とセッティング

SD を楽しむために、音響は重要な要素です。

SD の音響の多くは、米国の Hilton のアンプ、Yak Stack のスピーカーが使われています。

実際の機材で取り扱いやセッティング方法を学びましょう。

Hilton Audio ホームページ : <https://www.hiltonaudio.com/>

Yak Stack スピーカーホームページ : <https://www.yak-stack.com>

また、所属されているクラブによって、機材の違いがあるかも知れませんが、クラブのコーラーに確認し、教えてもらいましょう。最近では、パソコンを使用してのコールが主流になっています。パソコンとアンプとの接続方法も学びましょう。

- 実機で取り扱い、セッティング方法を学ぶ
- パソコン等、自身の使用している機材とアンプのセッティング方法を学ぶ

21. 適切なマイクの使い方

SD のコールはマイクを通して行われます。マイクの手扱いかにも慣れていく必要があります。

マイクには指向性（マイクの感度が、音の入力されてくる方向によって異なる性質）がありますので、使用するマイクの指向性を知りましょう。

一般的にボーカル用のマイクは、『単一指向性』で、特定の方向を捉えやすい性質を持っています。この場合の特定の方向とは、マイクの正面、すなわちヘッドケースの中心になりますので、マイクの正面を自分の口の真正面に持ってくるようにしましょう。口とマイクの間隔は、一般的に、握りこぶし一つ分程度、と言われていますが、SD では声をダンサーに届けることが優先されますので、もう少し近い方が良いでしょう。

マイクは、多種多様な種類がありますので、自分の好みのマイクを見つけるようにしましょう。わからない場合は、クラブのコーラーに聞いて教えてもらいましょう。

ダイナミックマイクは、近すぎて悪いことはありませんが、近いほど低音をよく拾うようになる特性があります。マイクは、消耗品でもありますので、つかっていくうちに劣化します。音の出具合が悪くなってきたと感じたら買い換えましょう。共用のマイクを使う場合は、エチケットとして 5 cm くらい話して使うのが良いでしょう。

- マイクの指向性を知る
- 自分の好みのマイクを見つける、単一指向性のダイナミックマイクから選ぶと良いでしょう
- 正しい位置でマイクを持ち、適切に使用する
(マイクの正面を自分の口の真正面に持つ)
- マイクは消耗品
- 軽い物、ワイヤレス、ヘッドセットマイク等も検討してみましょう

22. 音源や機材の購入方法

SD 用の音源、機材は、基本的に米国製の物が、広く日本でも使用されています。

個人でインターネットを使用し、購入することが一般的です。

※音源の購入 : SD の音源を探すサイト

米国 CALLERLAB が数多く発売される SD 用の曲を探しやすくするため、運用しているサイト Music for Callers : <http://www.musicforcallers.com/>

このサイトで曲を探し、実際のレコード会社のホームページから購入する

近年は、パソコン用の MP3 ファイルでの発売がほとんどで、購入すると、即ダウンロードができるサイトが多くなっています。支払い方法は、クレジットカードによる決済か、支払い代行業者の PayPal に依るものがほとんどです。ネットで、しかも海外からの購入に不安を感じられることもあると思いますが、現状、あまり大きな問題は起きていないようです。

日本スクエアダンス協会ホームページのスクエアダンス技術情報のトピックス欄に、『SD 音楽の購入方法について』が、掲載されていますので、参考にされると良いでしょう。

日本スクエアダンス協会ホームページ・スクエアダンス技術情報トピックス URL :
<http://www.squaredance.or.jp/553/#07>

機材については、先の項の通り、Hilton Audio から、これもやはり直接購入をするケースが多いです。

※Hilton Audio ホームページ : <https://www.hiltonaudio.com/>

マイクも同様に Hilton Audio から、いくつか購入できますが、マイクは多種多様な物が発売されていますので、楽器店や量販店等に見に行ってみるのも良いでしょう。初心者の中にはわからないことが多いと思いますので、周囲の先輩コーラーに教えてもらうのが良いでしょう。

- SD の音源は、米国から直接購入する
- 機材も同様に、米国から直接購入することが多い
- マイクは多種多様な物があり、楽器店や量販店等に見に行くのも良い
- 周囲の先輩コーラーに教えてもらう

23. 女性コーラーの為の音源

スクエアダンスの音源は、米国等を中心に専門の会社によって製作され、販売されています。

かつてはコーラーによる録音が多かったので、曲も男性に合うキーで製作されており、女性コーラーにとっては自分の声のキーに合う曲を見つけることが困難でした。現在でも男性コーラーによる録音曲が多いものの、女性コーラーの台頭により女性コーラーが録音した曲のリリースが増えてきています。

デジタル技術の進歩により、同じ曲でもキーを変え、3 パターンぐらいの演奏で発売されることも増えてきており、少しずつ女性コーラーにも合う曲が増えていきます。Chic レコードのように、新曲は常に男性バージョン、女性バージョンの両方で発売する会社もあります。

また、パソコンを使用すれば、キーの変更が容易にできますので、使ってみるのも良いでしょう。ただし、あまりキーを変更し過ぎると曲の雰囲気や演奏の質が低下したようになりますので、注意しながら変更してください。

今も、女性コーラーが自分のキーに合う曲を見つけるのは困難な部分もありますが、環境は少しずつ変わってきています。工夫したり、周囲の女性コーラーに聞いたりして、ご自分に合った曲を見つけてくだ

さい。

S 協ホームページのスクエアダンストピックス、その他トピックスに、米国のコーラー、デボラ キャロル ジョーンズさんが執筆された『女性コーラー向け Music 資料』が掲載されていますので、参考になさってください。

24. コール用ソフトの活用

近年では、コールを行うに当たり、様々なパソコン用のソフトが世の中に出回っています。

代表的なものが、『コレオグラフィー作成ソフト』、『音楽プレイヤーソフト』で、どちらも非常に便利なものですので、活用していくと良いでしょう。

コレオグラフィー作成ソフトの代表的なもの：

Sd - A Square Dance Caller's Helper (SD Couple)

音楽プレイヤーソフトの代表的なもの：SqView, SD Music Player

動作確認用ソフトの代表的なもの：Taminations (Sequencer 機能でコレオ作成も可能)

いずれもフリーソフトであることを理解の上、使用するようにしましょう。

但し、コーラー初心者の内は SD 駒を使って作成することもとても大切です。(コールの隊形や動きを身に付ける為)。コレオグラフィー作成ソフトの使用に当たっては、クラブの先輩コーラーに相談してみるのも良いでしょう。

- コレオグラフィー作成ソフトを知る
- 音楽プレイヤーや動作確認ソフトを知る

25. スクエアダンス関連の Web サイトの閲覧方法

スクエアダンス関連の代表的な Web サイトです。

【米国】

CALLERLAB : <http://www.callerlab.org/>

Music for CALLERS : <http://www.musicforcallers.com/>

Hilton Audio : <https://www.hiltonaudio.com/>

【日本】

一般社団法人日本スクエアダンス協会 (S 協) : <http://www.squaredance.or.jp/>

公益社団法人日本フォークダンス連盟 (日連) : <http://www.folk-dance.or.jp/>

その他にも、米国のレコード会社や、個人等々、多種多様な Web サイトがありますので、ご自身で探してみましょう。スクエアダンス関連ではありませんが、YouTube にも多くのスクエアダンスの動画が投稿、掲載されていますので、閲覧することも参考になるでしょう。

- SD 関連の多種多様な Web サイトが存在する
- 自分自身で探してみる

26. 所属クラブのルールや役割分担の理解

日本の SD のクラブは、多くがサークル活動的なクラブ運営を行っています。そのほとんどが社会人の

サークルであり、言わば大人の世界のサークルです。そして、クラブには、性別、年齢、職業等々を問わず、様々な方が参加されます。是非、指導者として、クラブのルール、役割分担について理解をしてください。

わからない場合は、クラブの代表、会長等にクラブのルールや役割を確認してみてください。規約が定められているクラブもありますので、確認してみましょう。

- 所属するクラブには、どのようなルールがあるかを理解する
- 所属するクラブには、どのような役割があり、皆で分担しているかを理解する

27. スクエアダンス関係の組織や事業についての理解

日本における SD の組織としては、一般社団法人 日本スクエアダンス協会（S 協）があります。ホームページによれば、S 協は以下のような団体です。

トップページの言葉

本協会は、生涯スポーツ・レクリエーションとしてのスクエアダンスの普及と発展を目的とし、楽しい仲間作りを目指して活動している団体です。

協会の目的

スクエアダンスの普及振興を通じ、広く国民及び地域の生涯スポーツ・レクリエーション活動の充実を図り、もって国民の生涯にわたる健康で豊かな生活の実現に寄与することを目的とします。

活動概要（どんな活動をしているの？）

- 全日本スクエアダンスコンベンションの開催
年に 1 回、全国の愛好者が参加し、交流を深めます。
- 機関誌の発行
年に 4 回発行します。この機関誌を読めば、ダンスに関する全国のニュースはもちろん、技術、ファッション等なんでもわかります。
- 講習会・研修会の開催
全国及び各都道府県、支部等において指導者になる為、又ダンサーとしての向上をはかる為に行なわれます。
- その他
各地域でのジャンボリー・パーティー又、技術面・運営面の資料、普及用 DVD の製作等を行っています。

S 協は、各所属クラブを通じて会員登録を行っており、全国に 7 つの統括支部（北海道、東北、関東甲信越、中部、近畿、中四国、九州）があり、統括支部の活動も活発に行われています。

また、S 協と密接に連携・協力する外部組織（独立した組織）として、都道府県スクエアダンス連絡協議会（都道府県連）があります。

皆さんも、ほとんどの方が S 協会員であると思います。会員として、協会の目的、活動概要、事業について理解すると良いでしょう。

また、密接に繋がっている団体として、公益社団法人 日本フォークダンス連盟（日連）があります

ので、併せて理解をしてください。日連には、フォークダンス、日本民謡、スクエアダンス、ラウンドダンス、レクリエーションダンスの5部門があり、スクエアダンスはそのうちの一つです。

なお、日本スクエアダンス協会、日本フォークダンス連盟、それぞれが資格（ライセンス）制度を有し、指導者の育成も行っています。S協、日連それぞれの公式行事でコールを行う場合は、それぞれのライセンスが必要な場合があります。

S協ホームページ：<http://www.squaredance.or.jp/>

日連ホームページ：<http://www.folk-dance.or.jp/>

- S協の目的、活動概要、事業について理解する
- 密接な団体として、日連がある

28. 所属クラブや関係組織の仕事への協力

日本のSDのクラブは、先に述べた通り、多くがサークル活動的なクラブ運営を行っていますので、クラブを運営していくに当たり、必要な役割があります。それらの役割への協力を求められた際は、積極的に協力し、クラブ運営に参画するようにしてください。

関係組織の仕事への協力を求められた時も同様に協力するようにしてください。

但し、ほとんどの方が、趣味としてSDに親しんでいると思いますので、ご自身の仕事、家族、生活環境等に影響が出ないよう、無理なく参加することが大事です。

- 所属するクラブ、関係団体の仕事には積極的に協力する
- SDは趣味なので、自分自身の仕事、家族、生活環境に影響が出ないよう、無理なく参画する

29. クラブや組織での指導的役割

このテキストの第1項『コーラーとしての心構え』で、「スクエアダンス（以下SD）の世界において、コーラーは『指導者』です。ただ単にコールをしていれば良いだけではなく、特に日本のSD界では、所属クラブでの役割分担、また組織への協力を求められることがあるでしょう。クラブや組織への役割・協力を求められた時には、是非、積極的に参加してください。まずは、それがコーラーとしての第一歩です。」と記しました。

所属クラブや、組織に対し、指導者として積極的に関わってください。

クラブは、大人のサークル、とも記しました。参加される全ての方に対し、尊敬の念をもって、分け隔てなく接するようにしてください。

ことダンスにおいては、正に指導をする立場になりますので、日々、ご自身のコール技術について研鑽を積んでください。

- クラブや組織では、指導者として積極的に関わる
- ダンス指導の為、日々、自己のコール技術の研鑽に努める

30. スクエアダンス活動に関係する法令や規範についての基本的な知識

関係する法令には、音楽著作権があり、S協として『著作権保護に向けてのガイドライン』を定めて

います。また、規範には、同様に S 協が定めた『倫理要項』があります。（別紙資料 4,5）

このテキストの巻末にそれらを掲載しますので、一読いただき、知識として知っておいていただくようお願い致します。

- S 協が定めた、『著作権保護に向けてのガイドライン』を知り、理解する
- S 協が定めた、『倫理要項』を知り、理解する

おわりに

以上、A1 コース（コール入門コース）で必要なことがらを述べてまいりました。














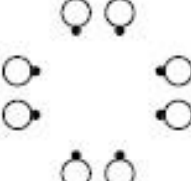
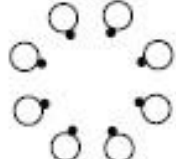
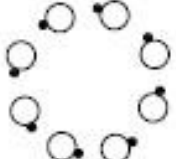

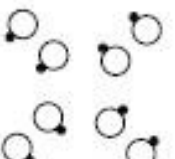




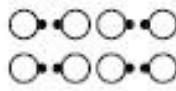
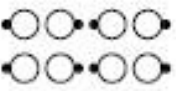

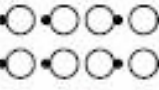



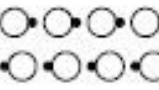
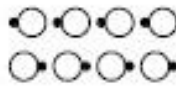

しかし、コーラーとして必要なことは、これだけではありません。S 協では、コーラーのステップアップの為に、講習会の各コースのカリキュラムを、ガイドラインとして定めています。

皆さんも、それに合わせて、コーラーとしてステップアップされて行かれることを望みます。





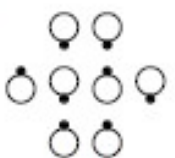
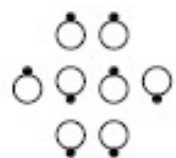
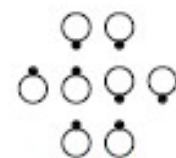
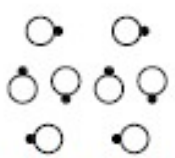
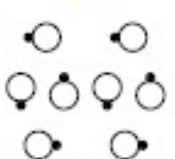
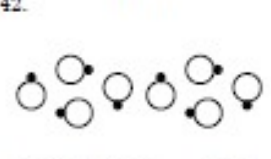

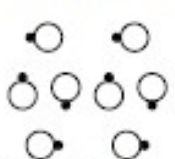
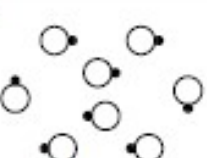
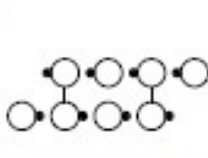
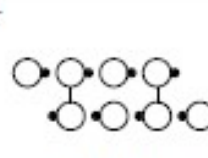
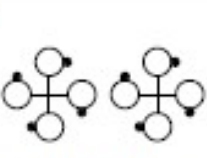
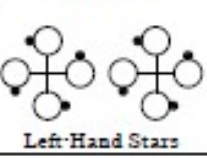
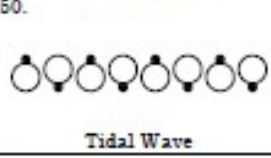
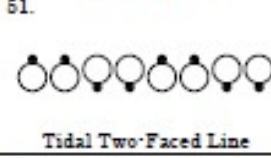
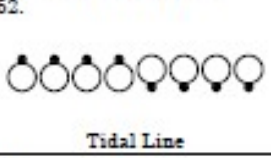
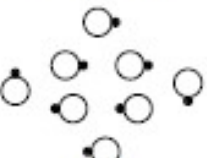

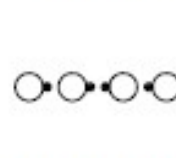
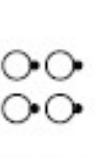
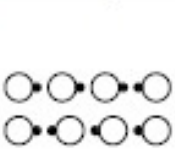

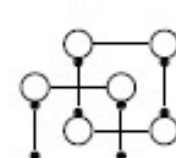
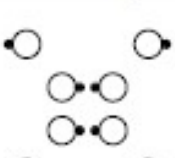
また、コールは、講習会で学ぶだけではなく、日々の研鑽、場数を踏むことがとても重要です。それには、ご自身の努力と共に、周囲のダンサーや先輩コーラーの助言等が大事になります。ダンサーの声や先輩コーラーの助言に耳を傾け、謙虚な姿勢でコールに取り組んで行ってください。

別紙資料 1 : Formations (CALLERLAB ホームページより)

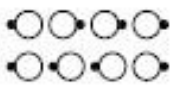
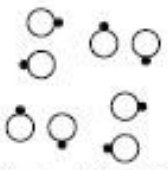
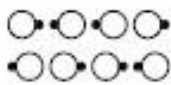
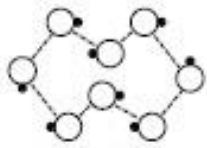
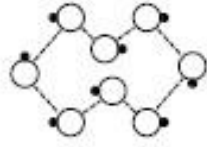
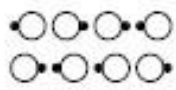
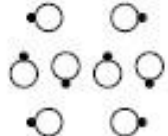
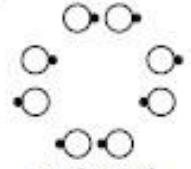



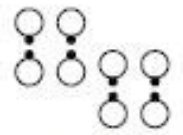
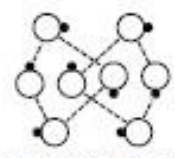
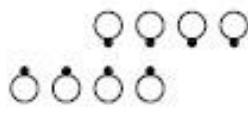
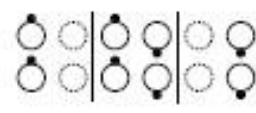
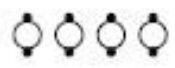

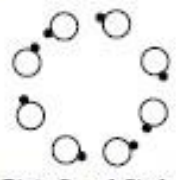
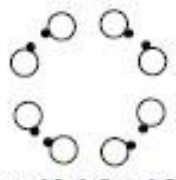
CALLERLAB Formation Pictograms (December 14, 2010)

1.  Couple	2.  Facing Dancers	3.  Back-to-Back Dancers	4.  Right-Hand Mini-Wave
5.  Left-Hand Mini-Wave	6.  Facing Couples	7.  Back-to-Back Couples	8.  Right-Hand Ocean Wave
9.  Left-Hand Ocean Wave	10.  Right-Hand Box Circulate	11.  Left-Hand Box Circulate	12.  Right-Hand Two-Faced Line
13.  Left-Hand Two-Faced Line	14.  Static Square	15.  Circle	16.  Single File Promenade
17.  Alamo Style	18.  Promenade	19.  Wrong Way Promenade	20.  Thar Star
21.  Wrong Way Thar	22.  Facing Lines	23.  Eight Chain Thru	24.  Trade By
25.  Double Pass Thru	26.  Completed Double Pass Thru	27.  Lines Facing Out	28.  Parallel Waves
29.  Parallel Two-Faced Lines	30.  Right-Hand Columns	31.  Left-Hand Columns	32.  Three and One Lines (8 possible)

CALLERLAB Formation Pictograms (December 14, 2010)

33.  Ends In Inverted Lines	34.  Ends Out Inverted Lines	35.  In T-bone Lines	36.  Out T-bone Lines
37.  1/4 Tag	38.  3/4 Tag	39.  1/4 Line	40.  Right Hand Diamonds
41.  Left-Hand Diamonds	42.  Right-Hand Point to Point Diamonds	43.  Right-Hand Facing Diamonds	44.  Left-Hand Facing Diamonds
45.  Hourglass	46.  Left-Hand Z	47.  Right-Hand Z	48.  Right-Hand Stars
49.  Left-Hand Stars	50.  Tidal Wave	51.  Tidal Two-Faced Line	52.  Tidal Line
53.  Galaxy	54.  Tandem	55.  Facing Tandems	56.  Tandem Couples
57.  Right-Hand 1/4 Box	58.  Siamese (Typical)	59.  Interlocking Blocks (Typical)	60.  "X" / Butterfly (Typical)

CALLERLAB Formation Pictograms (December 14, 2010)

<p>61.</p>  <p>Right-Hand 3/4 Box</p>	<p>62.</p>  <p>Phantom (Typical)</p>	<p>63.</p>  <p>Right-Hand Magic Columns</p>	<p>64.</p>  <p>Right-Hand Facing Hourglass</p>
<p>65.</p>  <p>Funny Hourglass (8 possible)</p>	<p>66.</p>  <p>Left-Hand Magic Columns</p>	<p>67.</p>  <p>3 By 1 Facing Diamonds</p>	<p>68.</p>  <p>"O" (Typical)</p>
<p>69.</p>  <p>Both T-Bone Boxes</p>	<p>70.</p>  <p>Out T-Bone Boxes</p>	<p>71.</p>  <p>In T-Bone Boxes</p>	<p>72.</p>  <p>Offset Blocks (Typical)</p>
<p>73.</p>  <p>Right-Hand Interlocked Diamonds</p>	<p>74.</p>  <p>Parallelogram (Typical)</p>	<p>75.</p>  <p>Triple Box (Typical)</p>	<p>76.</p>  <p>General Line (10 possible)</p>
<p>77.</p>  <p>General Lines (16 symmetric possible)</p>	<p>78.</p>  <p>Dixie Grand Circle</p>	<p>79.</p>  <p>Right and Left Grand Circle</p>	

Change History since April 1980:












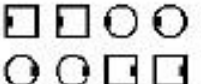



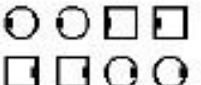
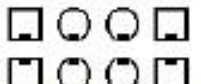

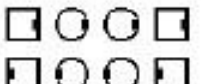
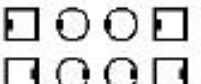
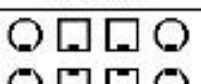



Date	Change Made
8/25/07	Add General Line, General Lines. Redraw all pictograms.
5/29/08	Add pictograms approved in 1984.
11/4/08	#25: change name to Starting Double Pass Thru.
11/5/08	#26: change name to Double Pass Thru.
11/6/08	#76: change to say "10 possible".
8/24/09	#60: fix dancer facing direction. #76: change back to "8 possible" by mistake.
8/25/09	Add Dixie Grand Circle and Right and Left Grand Circle (approved in 1983).
9/28/10	#76: change to say "10 possible". Add change history.
12/14/10	Convert to Word.

別紙資料 2 : Formations & Arrangements (CALLERLAB ホームページより)

NAMES & PICTOGRAMS OF SELECTED FORMATION ARRANGEMENTS

Approved February, 2023

Page 1 of 7

	Facing Lines	Lines Facing Out	Right-Hand Columns	Left-Hand Columns
Why	1980	Facing Lines: <i>Pass Thru</i>	(1980) Facing Lines: <i>Touch 1/4</i>	Facing Lines: <i>Left Touch 1/4</i>
0	 Normal Couples			
1/2	 Half-Sashayed			
1	 Boys on Left			
2	 Girls on Left			
3	 Normal Couple on Left			
4	 Half-Sashayed Couple on Left			

Callers often use a Boy-Girl (BG) notation to describe the arrangements for Facing Lines. The order is read from left to right of the line near the caller, or within the dancer's line.

- "0" Facing Lines (Normal Couples) = BGBG Facing Lines
- "1/2" Facing Lines (Half-Sashayed Couples) = GBGB Facing Lines
- "1" Facing Lines (Boys on Left) = BBGG Facing Lines
- "2" Facing Lines (Girls on Left) = GGBB Facing Lines
- "3" Facing Lines (Normal Couple on Left) = BGGB Facing Lines
- "4" Facing Lines (Half-Sashayed Couple on Left) = GBBG Facing Lines

There is no standard rule for reading the genders when the dancers are in other formations. Word descriptions might include some Boy-Girl terminology along with clarifying words regarding the point of view and reading order. For example, "Right-Hand Columns from front to back, GBGB" describes the "0" Arrangement for Right-Hand Columns.

NAMES & PICTOGRAMS OF SELECTED FORMATION ARRANGEMENTS

Approved February, 2023

Page 2 of 7

	Eight Chain Thru	Trade By	Double Pass Thru	Completed Double Pass Thru
Why	1980	1980	1980	1980
0 Normal Couples				
1/2 Half Sashayed Couples				
1 Boys Outside				
2 Girls Outside				
3 Normal Couple Outside				
4 Half Sashayed Couple Outside				

NAMES & PICTOGRAMS OF SELECTED FORMATION ARRANGEMENTS
 Approved February, 2023

Page 3 of 7

	Eight Chain Thru (reference)	Parallel Right-Hand Waves	Parallel Left-Hand Waves	Parallel Right-Hand Two-Faced Lines	Parallel Left-Hand Two-Faced Lines
		(1980) Eight Chain Thru: <i>Step to a Wave</i>	Eight Chain Thru: <i>Step to a Left Wave</i>	(1980) Eight Chain Thru: <i>Swing Thru, Centers Run</i>	Eight Chain Thru: <i>Left Swing Thru, Centers Run</i>
0	Normal Couples				
1/2	Half Sashayed Couples				
1	Boys Outside, Girls Inside				
2	Girls Outside, Boys Inside				
3	Normal Couple Outside				
4	Half Sashayed Couple Outside				

Note: These arrangement numbers were assigned by beginning with the corresponding arrangement number in an Eight Chain Thru formation and then using the indicated call.

NAMES & PICTOGRAMS OF SELECTED FORMATION ARRANGEMENTS
 Approved February, 2023

Page 4 of 7

	Right-Hand 1/4 Tag	Left-Hand 1/4 Tag	Right-Hand 3/4 Tag	Left-Hand 3/4 Tag
Why	Double Pass Thru: <i>Centers Step to a Wave (1980)</i>	Double Pass Thru: <i>Centers Step to a Left Wave</i>	Trade By: <i>Centers Step to a Wave</i>	Trade By: <i>Centers Step to a Left Wave</i>
0				
1/2				
1				
2				
3				
4				

NAMES & PICTOGRAMS OF SELECTED FORMATION ARRANGEMENTS
 Approved February, 2023

Page 5 of 7

	Right-Hand Diamonds	Left-Hand Diamonds	Right-Hand Hourglass	Left-Hand Hourglass
Why	(1980) Parallel R-H Two-Faced Lines: <i>Centers Hinge</i>	Parallel L-H Two-Faced Lines: <i>Centers Hinge</i>	Parallel R-H Two-Faced Lines: <i>Centers Half Circulate</i>	Parallel L-H Two-Faced Lines: <i>Centers Half Circulate</i>
0				
1/2				
1				
2				
3				
4				

NAMES & PICTOGRAMS OF SELECTED FORMATION ARRANGEMENTS
 Approved February, 2023

Page 6 of 7

	Right-Hand Tidal Wave	Left-Hand Tidal Wave
Why	Facing Lines: <i>Step to a Wave</i>	Facing Lines: <i>Step to a Left-Hand Wave</i>
0	□ ○ ○ □ □ ○ ○ □	○ □ □ ○ ○ □ □ ○
1/2	○ □ □ ○ ○ □ □ ○	□ ○ ○ □ □ ○ ○ □
1	□ ○ □ ○ ○ □ ○ □	○ □ ○ □ □ ○ □ ○
2	○ □ ○ □ □ ○ □ ○	□ ○ □ ○ ○ □ ○ □
3	□ □ ○ ○ ○ ○ □ □	□ □ ○ ○ ○ ○ □ □
4	○ ○ □ □ □ □ ○ ○	○ ○ □ □ □ □ ○ ○

	Right-Hand Tidal Two-Faced Line	Left-Hand Tidal Two-Faced Line
Why	Parallel Right-Hand Two Faced Lines: <i>Couples Hinge</i>	Parallel Left-Hand Two Faced Lines: <i>Couples Hinge</i>
0	□ ○ ○ □ □ ○ ○ □	□ ○ ○ □ ○ □ □ ○
1/2	○ □ □ ○ ○ □ □ ○	□ ○ ○ □ □ ○ ○ □
1	□ □ ○ ○ ○ ○ □ □	□ □ ○ ○ ○ ○ □ □
2	○ ○ □ □ □ □ ○ ○	○ ○ □ □ □ □ ○ ○
3	□ ○ □ ○ ○ □ ○ □	○ □ ○ □ □ ○ □ ○
4	○ □ ○ □ □ ○ □ ○	□ ○ □ ○ ○ □ ○ □

NAMES & PICTOGRAMS OF SELECTED FORMATION ARRANGEMENTS
 Approved February, 2023

Page 7 of 7

	Eight Chain Thru	Ends In Inverted Lines	Ends Out Inverted Lines	
Why	(for reference)	Eight Chain Thru: <i>Centers In</i>	Eight Chain Thru: <i>Centers Out</i>	
0				
1/2				
1				
2				
3				
4				



TIMING — THE CALLERLAB BASIC AND MAINSTREAM PROGRAMS

Revised February 15, 2023

ABBREVIATIONS: SS = Static Square, FC = Facing Couples

Timing is given from point of contact. If it takes some steps or beats of music to get to the point of contact, then add that to the numbers. We have listed this in more detail for the commonly used calls where the Squared Set Convention returns the dancers to a Squared Set.

TIMING — THE BASIC PROGRAM

Alamo Style	Allemande Left in Alamo Style: 4
Allemande Left	1/2 arm turn: 4 to 6, 3/4 arm turn: 6 to 8, full arm turn: 8
Arm Turns	1/2 around: 4, 3/4 around: 4 to 6, full around: 6 to 8
Backtrack	2
Balance	4
Bend the Line	line of four: 4, line of eight: 6
Box the Gnat	4
California Twirl	4
Chain	Two Ladies from FC: 6, from SS: 8, Four Ladies from SS: 8, 3/4: 10, Down the Line: 8
Circle Left (or Right)	SS 8 people full around: 16, 3/4 around: 12, 1/2 around: 8, 1/4 around: 4
.....	FC 4 people full around: 8, 3/4 around: 6, 1/2 around: 4, 1/4 around: 2
.....	2 facing dancers full around: 7, 3/4 around: 5, 1/2 around: 4, 1/4 around: 2
Circle to a Line	8
Circulates	4, except if the Circulate is a Pass Thru: 2
Courtesy Turn	4
Dive Thru	couple diving: 2, couple making arch: 6
Do Paso	12
Dosado	SS across set: 8, otherwise: 6
Dosado to a Wave	6
Double Pass Thru	4
Extend	2
Ferris Wheel	6
First Couple Go Left/Right, Next Couple Go Left/Right	6
Flutterwheel / Reverse Flutterwheel	FC: 8, SS Heads or Sides: 10, SS All: 12
Forward and Back	lines close together: 4, all others: 8
Grand Square	32
Half Sashay / Rollaway / Ladies In, Men Sashay	4
Lead Right (or Lead Left)	4
Pass the Ocean	4
Pass Thru	Facing Dancers: 2, SS Heads or Sides: 4
Promenade / Wrong Way	SS full around: 16, 3/4 around: 12, 1/2 around: 8, 1/4 around: 4
Right and Left Grand / Weave the Ring / Wrong Way Grand	10
Right and Left Thru	FC 6, Ocean Wave 6, SS Heads or Sides: 8
Run / Cross Run	centers: 4, centers Cross Run: 6, ends: 4, ends Cross Run: 6
See Saw	8
Separate	2 plus time to travel around the outside

Separate around 1 or 2 to a Line	Pass Thru, Separate Around 1 to a Line: 8, around 2: 10
Separate around 1 or 2 into the middle ..	Pass Thru, Sep. Around 1 into Middle: 8, around 2: 12
Single File Promenade	4 dancers inside: 8
Split Two	2 plus next call
Square Thru	FC 1: 2, 2: 5, 3: 7 or 8, 4: 10, SS odd numbers: add 2 to previous count
Step to a Wave	2
Star Promenade	four couples full around: 12, 3/4 around: 9, 1/2 around: 6, 1/4 around: 3
.....	four couples full around with back out at home: 16
Star Thru	4
Stars	four people full around: 8, 3/4 around: 6, 1/2 around: 4, 1/4 around: 2
.....	eight people full around: 16, 3/4 around: 12, 1/2 around: 8, 1/4 around: 4
Sweep 1/4	two couples: 2, all four couples: 4
Swing	advancing skill and variable, at least 4
Swing Thru	6
Touch 1/4	2
Trade By	4
Trade	Mini-Wave: 3, Partner Trade: 4, Couples Trade from Two-Faced Line: 6
U-Turn Back	2
Veer Left (or Veer Right)	2
Walk Around the Corner	8
Wheel and Deal	4
Wheel Around (or Reverse Wheel Around)	4
Zoom	4

TIMING — THE MAINSTREAM PROGRAM

Allemande Thar	Left Arm Turn 1/2 to Thar: 2, SS Allemande Left Forward Two to Thar: 12
Cast Off 3/4	6
Centers In	2
Cloverleaf	8 dancers: 8, 4 active dancers: 6
Dixie Style to an Ocean Wave	FC or facing tandems: 6, SS All: 8
Eight Chain Thru	eight hands: 20, four hands: 10
Fold / Cross Fold	Fold: 2, Cross Fold: 4
Half Tag	4
Hinge	Couples Hinge: 3, Single Hinge: 2
Pass to the Center	dancers who finish in the center: 2, dancers who finish on the ends: 6
Recycle	4
Scoot Back	6
Shoot the Star	4, full around: 6
Slide Thru	4
Slip the Clutch	2
Spin Chain Thru	resulting ends: 3, resulting centers: 16
Spin the Top	8
Tag the Line	(Full) Tag: 6, 3/4 Tag: 5, 1/2 Tag: 4, 1/4 Tag: 3
Turn Thru	4
Walk and Dodge	4

This list is furnished through the courtesy of CALLERLAB. Permission is granted to reproduce this data provided the following notice is included: *Reprinted with permission of CALLERLAB.*



TIMING - THE CALLERLAB PLUS PROGRAM

Revised November 3, 2021



ACEY DEUCEY	4
ALL 8 SPIN THE TOP	10
(ANYTHING) & ROLL	2
(ANYTHING) & SPREAD	2
CHASE RIGHT	6
COORDINATE	8
CROSSFIRE	6
CUT THE DIAMOND	6
DIAMOND CIRCULATE	3
DIXIE GRAND	6
EXPLODE FAMILY	
(a) Explode the Wave	6
(b) Explode and	2 + (Anything) call
FAN THE TOP	4
FLIP THE DIAMOND	3
FOLLOW YOUR NEIGHBOR	6
GRAND SWING THRU	6
LINEAR CYCLE	8-10
LOAD THE BOAT	12
PEEL FAMILY	
(a) PEEL OFF	4
(b) PEEL THE TOP	6
PING PONG CIRCULATE	6
RELAY THE DEUCEY	20
SINGLE CIRCLE TO A WAVE	4
SPIN CHAIN & EXCHANGE THE GEARS	26
SPIN CHAIN THE GEARS	24
TEACUP CHAIN	32
TRACK 2	8
TRADE THE WAVE	6
TRIPLE SCOOT	6

This list is furnished through the courtesy of CALLERLAB. Permission is granted to reproduce this data provided the following notice is included "Reprinted with permission of CALLERLAB."

著作権保護に向けてのガイドライン

音楽著作権の保護は、スクエアダンスの例会、講習会、パーティーなど音楽を利用するすべての活動で求められる課題です。そして、著作権を保護する責任は“主催者が負う”ことになっています。

著作権法等の法令を遵守し、適正な運営を行う上で、会員の皆様に留意いただきたいことを、ガイドラインの形でまとめました。

著作権保護等の観点から留意いただきたい事項

◎ パーティーなどクラブのメンバー以外の方が参加する事業

(1) 添書や要項へのあて先の記載について

仲間への案内と分かるよう「関係各位」と、記載する。

(⇒ “共益事業”の位置付けを明らかにするためです。)

(2) 要項への留意事項の記載

「著作権の保護について、各人で十分にご留意願います。」と付記する。

(⇒ 録音・録画等は、使用方法によっては著作権の侵害につながるケースがあります。※1
そこで、主催者の責務を行使していることを明らかにするため、本留意事項を記載します。)

(3) 参加費等の記載 (1)

費用を徴収する場合は、実費のみを徴収し、利益をあげていないことを明らかにすることが大切です。

(⇒ そのために、「会費」との記載よりは「参加費」等との記載がよいと思われます。)

(4) 参加費等の記載 (2)

・S 協会員 ***** 円

・その他のSD愛好者 ***** 円

のように記載する。

(⇒ 共益事業としての位置付けのためです。S協への加盟により共益性を高めるとともに、S協会員のメリットにご配慮ください。)

※1 録音物・録画物を自分自身のみ、または家庭内等で共有する分には侵害にはなりませんが、別の講習会等で使用したり、コピーを作って配布したりすると、著作権を侵害することになります。また、主催者の同意なしに動画サイトへの投稿なども行うことのないよう注意が必要です。

◎ 初心者講習会における記載

(1) 初心者講習会の添書や要項への記載について

「この講習会は、社会教育の立場において、生涯スポーツ・レクリエーションとしてのスクエアダンスを体験いただくための講習会です。」のような内容（趣旨）を織り込む。

（⇒ S協定款やS協倫理要綱の趣旨に沿い、“SD普及は、社会教育活動であることを周知・広報する機会となる”ことを記載することになります。）

(2) 初心者講習会の受講費等について

初心者講習会は、“公益事業”と位置付けることができる事業です。会場費、資料作成費、スナック費、卒業パーティー費、機材費など運営実費をお知らせし、実費のみを徴収する工夫をお願いいたします。（この場合も、「講習費」等と記載し、「会費」との記載は避けてください。）

また、「無料体験講習会」等を開催されているクラブも多いかと思います。まだ、そのような機会が設けられていない場合は、会員間でご検討いただき、取り上げてみてはいかがでしょうか。

クラブの会費は、講習会終了後に入会者からのみ徴収するなど、適正なクラブ運営に必要な費用の設定や案内に努めてください。（⇒ 明朗な会計処理が必要となります。）

◎ その他の催事での留意点

(1) 個人があるいはクラブが合同で主宰する催事や講習会等

著作権法上の問題が発生した場合には、主催者にその責務がありますので、ご注意ください。

S協は、正会員から報告を受けている範囲（クラブ紹介の内容）の中での活動について、ご協力いたします。

催事や講習会等を行う際には、利潤の出ない運営に努めていただき、他の正会員に影響が出ないようにご協力をお願いいたします。

以上です。

別紙資料 5：一般社団法人 日本スクエアダンス協会 倫理要項

(一般社団法人日本スクエアダンス協会ホームページより)

一般社団法人 日本スクエアダンス協会 倫理要綱

平成 18 年 6 月 10 日 制定

平成 22 年 4 月 1 日 改

平成 27 年 6 月 21 日 改

スクエアダンスは、誰もが参加でき、楽しみながら健康の維持・向上を図ることができる生涯スポーツ・レクリエーションです。

これを、普及・振興し、発展させるため、愛好者ひとり一人が立派な社会人として責任ある行動することを自覚し、スクエアダンスを楽しめる環境を創造していくことの大切さを認識することが必要です。そのようにスクエアダンスを楽しむことで、市民の関心が高まり、普及・発展へつながっていきます。

ここに、私たち 一般社団法人 日本スクエアダンス協会（以下「協会」という。）会員は、協会の定款に従い、社会教育及び学校教育の場において生涯スポーツ・レクリエーションとしてのスクエアダンスが広く普及することを願い、「一般社団法人 日本スクエアダンス 協会倫理要綱」を定めます。

1. 私たちは、スクエアダンスはみんなで楽しむものであることを念頭において、人種、宗教、性、年齢に拘らず、あらゆる人々を公平に扱います。
2. 私たちは、行動に当たって、常に社会規範を遵守し、思いやりと礼儀を基本としたマナーをしっかりと守ります。
3. 私たちは、スクエアダンスを広めるため、他の人に楽しさを伝えることを想像して行動し、新しい仲間を活動における最も重要な人々として受け入れます。
4. 私たちは、個人の尊厳を互いに尊重しあい、自分自身も高潔清らかな人間であるよう努めます。
5. 私たちは、活動を通じて、会員相互の親睦を深めると共に、地域の発展や国際理解・交流の推進に寄与します。
6. 私たちは、社会教育の観点から、コミュニティづくり、人々の健康、高齢者や障がい者等の生きがい支援、学校教育活動などへの協力を惜しみません。
7. 私たちは、社会の環境の変化や国際的な動向に照らして柔軟に対応し、スクエアダンスの普及に努めます。
8. 私たちは、ボランティアの精神を尊重し、活動を行うことにより物質的な利益を得ようとする気持ちを持ちません。
9. 私たちは、スクエアダンスのもつ協力と協調の精神を尊び、健全で品位あるクラブ組織の発展と維持に協力し、そのための義務を果たします。
10. 私たちは、協会もしくは他の会員の信用を傷つけ、また、協会もしくは他の会員の不名誉となるような行為はしません。

補足 : A1 コースについての詳細

メインテーマ : コール入門

コース目的 : コーラーの役割、およびコールに必要な基本スキルの認識と理解

コースのゴールイメージ :

- ・コールをするということはどういうことか、を理解する
- ・コーラーの役割とは何かを理解する
- ・コーラーの心構えを理解する
- ・リズムに乗って声が出せる
- ・SD 駒を動かすことができる

コース選択の目安 :

- ・B/MS を十分に踊り込んでいる
- ・PLUS を踊れることが望ましい

このコースで講習する項目 :

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ・コーラーの心構え | ・シンギングコールの知識、構成、選曲等 |
| ・コールの種類、構成 | ・タイミングの重要性 |
| ・ゲットイン、ゲットアウト、ボディの理解 | ・機材の取り扱い |
| ・発声と発音 | ・セッティング方法 |
| ・リズムの取り方 | ・音源やマイクの購入方法 |
| ・動作とタームの違い | ・女性コーラーの為の音源 |
| ・SD 駒の動かし方 | ・倫理 |
| ・FASR とフォーメーション | ・著作権概要 (入門編) |
| | ・所属クラブへの貢献 |

可能なら講習に加える項目 (講師判断) :

- ・音楽の知識、ドレミ、長/短調、4/4 拍子等

※技術委員会・SD 小委員会発行、コーラーカリキュラムガイドラインより

編集後記

一般社団法人 日本スクエアダンス協会（以下：S 協）の各統括支部等が実施する講習会は、コーラー養成にあたり、従来から A1 コース、A2 コース等のコース設定が行われ実施されてまいりました。

しかし、名称は同じでも開催地域や担当講師等により内容にバラツキがある、というご指摘をいただくようになり、S 協としてコーラー養成のためのカリキュラムの一貫性が求められるようになりました。

そこで、技術委員会・スクエアダンス小委員会で講習のカリキュラム内容を検討し、カリキュラムガイドライン、およびガイドライン細目、運用マニュアルを発行致しました。（2018 年 11 月発行、2023 年 12 月改定）

その後、カリキュラムガイドラインに則した講習会テキストの必要性が求められ作成に着手、長い時間がかかりましたが『標準テキスト』として、新しい A1～A6 コースのテキストをまとめ、発行致します。

この『標準テキスト』は、各コースで講習する必修項目がカリキュラムガイドラインに沿ってまとめられています。各統括支部におかれましては、カリキュラムガイドライン・細目に則った講習会を実施いただくと共に、この『標準テキスト』をご活用くださいますよう、お願いいたします。

講師の方々においては、『標準テキスト』で担当するコースの講習内容を確認いただくと共に、ご自身のオリジナリティーを加えていただき、より効果的な講習を行っていただきたいと思っております。

受講生の皆さんには、ご自身の受講コースの学習に使うと同時に、全コースの『標準テキスト』を S 協ホームページで公開しますので、他のコースについても自学習ができるようになっています。

この『標準テキスト』が広く活用され、コーラー養成の一助となることを願って。

末筆になりますが、各コースのテキストを執筆いただいた、島田秀幸氏、森口久江氏、荒木義昭氏、勝亦隆夫氏、および、内容のチェック・構成・編集・体裁調整等まで協力いただいた、SD 小委員会委員各位、特に、森口久江氏、若松眞紀子氏、小方正美氏、玉田厚氏、松井和也氏に、改めて深く謝意を表します。

2023 年 12 月 第 1 刷発行
一般社団法人 日本スクエアダンス協会
監修：技術委員会・スクエアダンス小委員会
原稿執筆：金子裕行（S 協コーラーコーチ）
編集責任者：金子裕行（SD 小委員長）